

1 秋田市環境部がBike to Workをはじめた経緯を教えてください。

(秋田市環境部 福田さん)

2008年にBEJ秋田支部が行っていた「Bike to Work」の活動を知り、地球温暖化対策の推進に有効ではと考え、その活動の様子を見に行ったのが始まりです。

「Bike to Work」の活動では、飲み物などを配ったり、自転車のメンテナンスを行ったり、楽しく自転車通勤が行えるよう応援しており、こうした活動を通じて自転車利用の重要性を市民の方々に直接訴え、地球温暖化対策に貢献できるとの印象を受けたことから、BEJと秋田市が「協働」することとなったものです。

2 秋田市役所内で活動が広がっていますがどう思われますか？

(秋田市環境部 福田さん)

自転車通勤を推進することは、「地球温暖化対策」のほか、「渋滞緩和」や「健康増進」にもつながることから、交通政策課や保健所等の関連課所室にも声をかけ、一緒に「Bike to Work」の活動を行うこととしたものです。

「Bike to Work」の活動は、毎月第4金曜日の「秋田市ノーマイカーデー」と併せて、BEJ秋田支部の方々と一緒に行ってきており、さらには、その「Bike to Work」を行う週を「エコ通勤ウィーク」と定め、市職員のエコ通勤（自転車、公共交通利用推進）の推進を行っています。市職員が率先して自転車等によるエコ通勤をする姿勢が大切であると考えております。

3 秋田市役所環境部、交通政策課、秋田市保健所としての自転車通勤を推奨するメリットをお聞かせ下さい。

(秋田市環境部 福田さん)

家庭から出るCO₂は、全国平均でも3割以上が自家用車から排出されています。車社会である本市では、この値はさらに大きいものとなっています。

自転車通勤の推奨は、自家用車から自転車などへの交通手段の転換を促すこととなりますので、交通政策課や保健所の方々との連携によって、さらに幅の広い取組となり、排出するCO₂の削減が大きなものとなるよう目指しております。

(交通政策課 松本さん)

秋田市では7割以上の方がマイカーで通勤されており、朝は、国道13号や7号を中心に、まちなかで渋滞箇所が多くみられます。渋滞は私たちの大切な時間を奪うだけではなく、私たちの生活に悪影響を及ぼします。

そこで、マイカー通勤などの自粛もしくは早起き時差通勤による渋滞の緩和を目指しております。

(秋田市保健所 鈴木さん)

私たちの生活は、交通機関の発達や電化製品の普及など生活様式の変化により、からだを動かす機会が減少しています。

身体運動が減少すると、体力の低下や生活習慣病の原因になるほか、心の健康にも影響を及ぼしかねません。

また、高齢期においては、転倒による寝たきりの原因になることもあります。

市民の方には、自転車通勤など適度な身体活動を日常化し、体力の保持増進、生活習慣病の予防・改善、ストレス解消などを図り、生涯にわたり健康的な生活を送っていただきたいと考えております。

4 市民の反応はありますか？

(秋田市環境部 福田さん)

先日行った「Bike to Work」の中で、市民の方から「先月も開催されてましたよね？」と声を掛けられることもあり、毎月同じ場所で継続開催することで、取組の認知度が徐々に高まっていることを感じております。

5 今後の目標をお聞かせ下さい。

(秋田市環境部 福田さん)

車社会と言われる秋田市では、環境に意識の高い方でも、自家用車から自転車への転換には大きな壁があるようです。「Bike to Work」などの活動を継続的に繰り返すことによって、比較的転換の容易な方々から、まずは自転車へとシフトしていただき、こうした流れを少しずつ大きなものとしてまいりたいと考えております。

今後も様々なイベントを継続的に実施し、自転車通勤の方々ばかりでなく、多くの方々に呼びかけ、「Bike to Work」の認知度を高め、秋田市内での自転車通勤者数の増加を目指して行きたいと思っています。

お話:秋田市環境部 環境総務課 地球温暖化対策担当 福田 森彦様

秋田市都市整備部 交通政策課 交通政策担当 松本 辰也様

秋田市保健所 保健総務課 鈴木 直様

取材:文:佐々木 泰作

取材日:2013年7月16日